

学 校 名	山形市立蔵王第一小学校	校 長	齋藤 正弘
	山形市蔵王成沢西四丁目3番17号 TEL688-2210 FAX688-9041	研究主任	土屋 久美
研 究 主 題	<p style="text-align: center;">「主体的に学ぶ子どもの育成」 (3年次) —対話的な学びを通して—</p>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>これからの学校には、一人一人の子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。</p> <p>児童が自己実現を図り生涯にわたって学び続けていくには、確かな学力の育成が不可欠である。知識・技能を習得するだけでなく、その知識・技能を活用して生活に役立つ思考力・判断力・表現力などを育成することが重要である。新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子ども達に育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。その3つを養うために、指導の工夫・改善が求められ、自ら主体的に学び考える学習を創造していくことが重要であると考え。</p> <p>本校の学校教育目標は「豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる子どもの育成」である。その具現化のため、探究型学習に重きを置き、自ら学ぶ課題の設定や互いに学び合おうとする学級づくりに力を入れながら、自ら学ぶ子どもを育成していくことが大切となる。</p> <p>平成26年度から4年間、「仲間とかかわりながら、自分の学びを高める子ども」をめざして研究に取り組んできた。1年次は国語科、2年次からは、研究教科を全教科に広げて取り組んだ。研究を進める中で仲間と関わりながら学ぼうとする子どもが増えた。相手を意識しながら話したり友だちの考えとの相違に気をつけて聴いたりすることが少しずつできるようになってきた。また、子ども同士で意見を出して課題を解決する場面や必要感のあるグループ交流も見られるようになってきた。しかし、与えられた課題には素直に取り組むが、課題を自分事として捉え、進んで課題に迫る方法を考えたり、解決のために更に方法を工夫しようしたりする子どもはまだ少なく、主体性にやや欠ける面が見られた。</p> <p>そこで、子ども達が主体的に課題解決に取り組む姿を第一に考え、学校教育目標の具現化、そして探究型学習を推進するために、平成30年度から「主体的に学ぶ子どもの育成」という主題を設定した。①子どもにとって、意欲的に取り組むことができたり必要感があったりする「課題」 ②「学び合い」を大切にしたい指導や支援の在り方 ③思考の深まりを実感できる「まとめ」、次時への課題とかかわりを意識した「振り返り」に重点を置いて実践を重ねる中で、既習事項や経験をもとにして課題に向き合う姿、分かりたくて友だちに尋ねたり教え合ったりする姿などが見られるようになってきた。友だちの考えを聴いたり、既習事項を振り返ったりしながら課題解決に向けて考えている姿も「主体的に学ぶ姿」と捉え、平成31年度からは「対話的な学びを通して」というサブテーマを設けて研究を進めてきた。課題や教材文、経験、発言、内言等も対話の対象と捉え、発言は少なくともじっくりと考え、調べ、課題解決に向かおうとしている子どもの中にも主体的な学びの姿を見出してきた。今年度も「課題」「学び合い」「まとめ・振り返り」の3つの重点を核にしなが、主体的に学ぶ子どもの姿を追求していく。</p>		

研究の目標

次のような学びの姿をめざして、研究を進めていく。

「めざす子どもの学びの姿」

- <低学年>
  - ・課題に進んで取り組み、学ぶことの楽しさを感じることができる。
  - ・友だちの考えを聴き、自分の考えを表現することができる。
- <中学年>
  - ・課題解決に向けて意欲的に取り組み、学ぶことのよさを感じることができる。
  - ・友だちの考えと比べて聴き、自分の考えを表現することができる。
- <高学年>
  - ・課題に粘り強く取り組み、解決したり次の課題を見出したりして、学びの高まりを感じることができる。
  - ・自分と友だちの考えをつなげ、更に自分の考えを深めて表現することができる。

研究の内容

各教科において、学びの高まりに有効な「課題」「学び合い」「まとめ・振り返り」に重点を置く。また、課題解決に向けて子ども達が何と対話をしながら考えを深めることができるのか意識して指導していく。

<3つの重点>

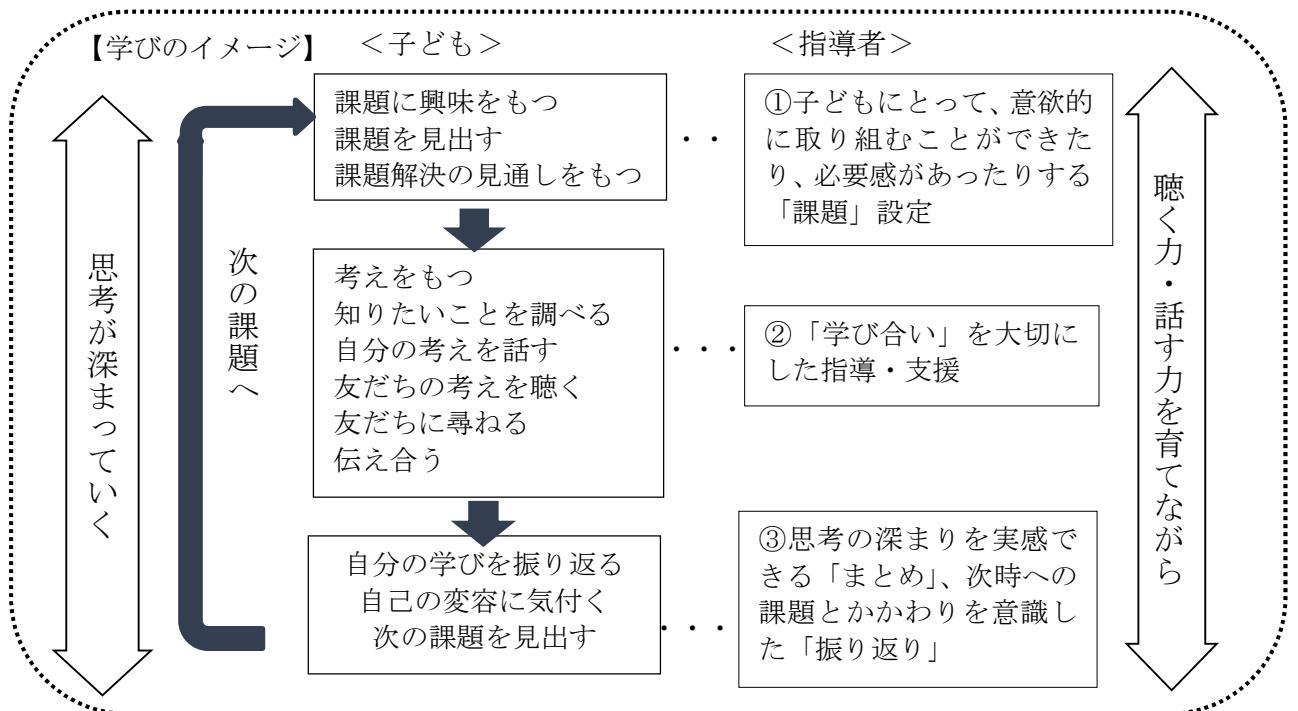
- ①子どもにとって、意欲的に取り組むことができたり、必要感があつたりする「課題」
  - ・主体的に取り組める課題、子どもが自ら発見・設定した課題（わくわくどきどきする、やりがいのある）
  - ・課題への見通しの持たせ方
- ②「学び合い」を大切にしたい指導や支援の在り方
  - ・「授業づくり」において、意図がはっきりした交流
  - ・聴くことを大切にしたいかかわらせ方（分かるうとして聴く、相違を考えるなど）
  - ・考えを広めたり深めたりするための子どもの声のつなぎ方や支援の在り方
  - ・「聴く・話す」力をつけるための指導
- ③思考の深まりを実感できる「まとめ」、次時への課題とかかわりを意識した「振り返り」
  - ・学習感想や振り返りの内容の吟味
  - ・かかわりを通して学んだことを実感できる（個に返る）手立て
  - ・授業内容に合わせたまとめ方

<対話の主な対象と目的>

課題との対話  
 問いとの対話  
 既習事項との対話  
 ※自分事にするために

友だち・教師との対話  
 情報（本・教材）との対話  
 自分の経験との対話  
 ※独りよがりにならないために

まとめで学習内容との対話  
 振り返りで自分との対話  
 ※学びを確かなものにするために



研究の方法

①授業研究について

- 研究授業は全員が行い、授業改善を進める。「低学年部」「中学年部」「高学年部」「特別支援部」の4つの部会を基本として事前研究会・事後研究会を行う。  
今年度は、公開研究発表会で13の研究授業をし、12月末までに4つの研究授業を行う。事後研究会では、「主体的に学ぶ子どもの姿」「主体的な学びにつながった手立て」について振り返り、グループごとに大判用紙にまとめて代表者が全体で発表し、視点に沿って話し合う。
- 研究授業の振り返りとして、「主体的に学ぶ子どものすがた」「主体的な学びにつながった手立て」「助言者からご指導いただいたこと（特に話題になったこと）」などについて全体会で実践を共有できるようにする。
- 研究紀要の原稿は、1月末までに授業者が作成する。

②教科について

- 教科の特質を考慮し「主体的な学び」のある授業を創っていく。教科は限定せず、様々な教科を通して主体的に学ぶ子どもの姿に迫っていくようにする。
- 公開研究発表会で公開する授業の教科は次の通り  
1年（道徳 国語） 2年（国語 道徳） 3年（外国語活動 国語）  
4年（国語 図画工作） 5年（算数 外国語） 6年（総合 外国語）  
支援（外国語・外国語活動）
- 12月末までに校内で行う研究授業の教科は次の通り  
3年または4年（外国語活動） 4年（算数） 5年（理科） 6年（理科）

③授業研究の具体的な進め方

	参加者	備考
事前授業研	学年部、助言者	5～7月に行う。事前授業研では公開研究発表会の助言者に子どもの姿を見ていただく。（本時案を準備する。） 事後研究会の後に公開授業づくり①を行い、公開研究発表会での授業について検討する。
公開授業づくり①		
公開授業づくり②	学年、助言者	7月中旬から夏期休業中に行う。 公開研究発表会での授業について検討する。
公開研究発表会	学年を中心に参加可能な方、助言者	10月7日（水）に行う。 （山形市教育委員会委嘱公開研究発表会）

- ・ 事前授業研の授業記録・写真記録・事後研究会司会・記録などは学年部で分担して行う。
- ・ 公開研究発表会の司会は、校内の他、転出された研究同人の方にもお願いをする。

④講師について

- 本校担当の市教委、澤村啓指導主事を中心に指導助言者をお願いする。
- 山形大学の佐藤博晴先生、山形大学附属特別支援学校の高橋真琴校長に研究協力をお願いする。

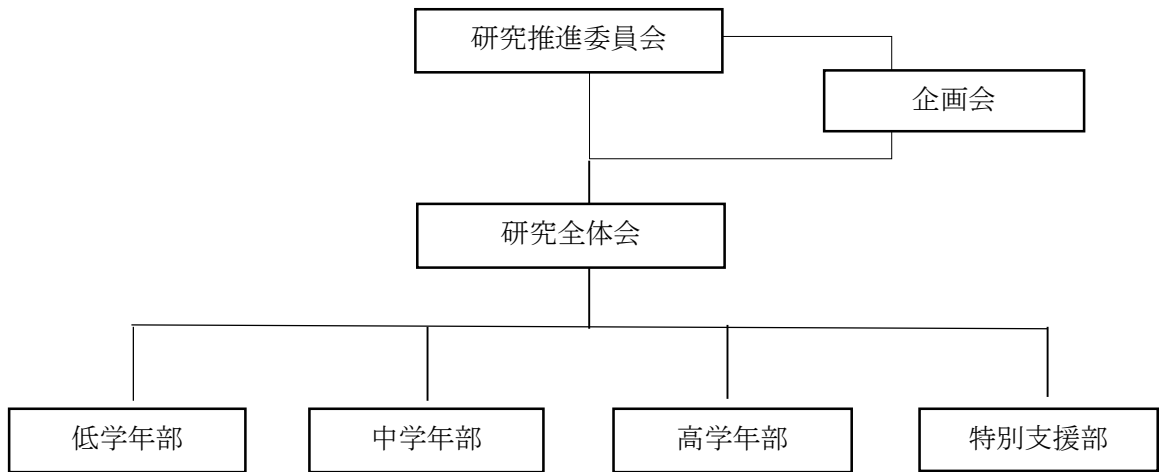
⑤研究の日常化について

- 学習指導と関連させ、各教科における今年度の指導の重点を明確にし、全職員共通理解のもと指導にあたり、授業や教育課程の中で、かかわりを通して主体的に活動する子どもの姿を引き出せるようにする。
- 日頃の授業の中で子どもが主体的に取り組んだ課題（good practice）を記録して共有する。
- 授業研以外でも、学年・個人で積極的に授業を開いていく。その場合、当該学年の研究推進委員が全職員に知らせるようにする。（略案も可）
- 教科主任を中心に、教科ごとの情報提供を積極的に行っていく。

研究の計画

- 4月
  - ・研究全体会① … 研究計画（研究の概要、授業者決定など）
  - ・研究推進委員会①
- 5月～
  - ・単元検討会 … 公開研究会でどの単元をするか話題にする
  - ・事前授業研究会… 助言者に子どもを見ていただく
  - ・公開授業づくり①… 公開研究会の授業について学年部と助言者で検討
- 7月～
  - ・公開授業づくり②… 公開研究会の指導案について学年と助言者で検討
  - ・研究全体会②… 1学期の研究の成果と課題（good practice と3つの重点）
  - ・公開研案内状原稿完成
- 8月
  - ・公開研の指導案完成
  - ・リーフレット原稿完成
- 9月
  - ・市内学校へリーフレット送付
- 10月
  - ・山形市教育委員会委嘱公開研究発表会  
（新型コロナウイルス感染症対策のため、公開研はR3年度に延期）
- 12月
  - ・研究推進委員会②・研究全体会③… 今年度の研究の成果と課題
- 1月
  - ・研究紀要原稿執筆
- 2月
  - ・研究推進委員会③・研究全体会④… 次年度の方向性
- 3月
  - ・研究紀要「こまくさ48号」発刊

研究の組織



★研究推進委員会：研究についての指針を決定するとともに、内容を討議し、推進を図る。  
 校長・教頭・教務（朝倉）・副教務（土屋）・特別支援（野口）  
 1年（舘石）・2年（工藤）・3年（加藤）・4年（小泉）・5年（石川）・6年（武石）

★企画会：情報収集、研究方法の提案、公開研究会に向けての諸準備などを行う。  
 研究主任と副研究主任が、クラブ活動と同じ時間帯に行う。

★校内研学年部会：授業創り（事前研究会、事後研究会）、理論の構築、授業実践を行う。  
 低学年部、中学年部、高学年部、特別支援部を基本にして行う。

低学年部	○舘石	高松	○工藤	金沢	○土屋	
中学年部	渡部	○加藤	半田	横尾	○小泉	藤谷
高学年部	中村	○石川	○武石	武田美	○朝倉	
特別支援部	○野口	菊地	今野	黒沼	(藤谷)	

○は研究推進委員